

F. L. ライトの建築が世界遺産として申請される！

日経や産経ニュースのサイトに下記のの記事が掲載されていました。

米、ライトの建築を世界遺産に申請「落水荘」など

【ワシントン＝共同】米 국무省は30日、日本の帝国ホテル・旧本館などの建築で知られる米建築家、フランク・ロイド・ライトが残した米国内の10の建物を国連教育科学文化機関（ユネスコ）の世界遺産に申請したと発表した。米国が世界遺産に近代建築を申請するのは初めてという。

ライト（1867～1959年）は米国を代表する世界的建築家で、スイス、フランス両国籍のル・コルビュジエらとともに「近代建築の3巨匠」などと称される。

申請したのは西海岸から東海岸まで全米に点在するライトの10作品。ニューヨークのグッゲンハイム美術館のほか東部ペンシルベニア州の「落水荘」など日本でも知られる建築物が含まれる。

フランク・ロイド・ライト財団によると、世界で千以上あるユネスコの世界遺産のうち米国にあるのはわずか22カ所。欧州諸国などに大きく水をあけられている。

※2015. 1. 31の記事より



かつて、目白に建つ自由学園・明日館の実測調査をしたこともあり、F. L. ライトの作品はとても愛着を感じています。

最近、落水荘の修復工事がなされたことを知ったのですが、記事によるとキャンティレバーのバルコニーが変形してきたことや漏水などによる老朽化により大規模な修復工事を実施し2002年の冬に完了したとのことでした。



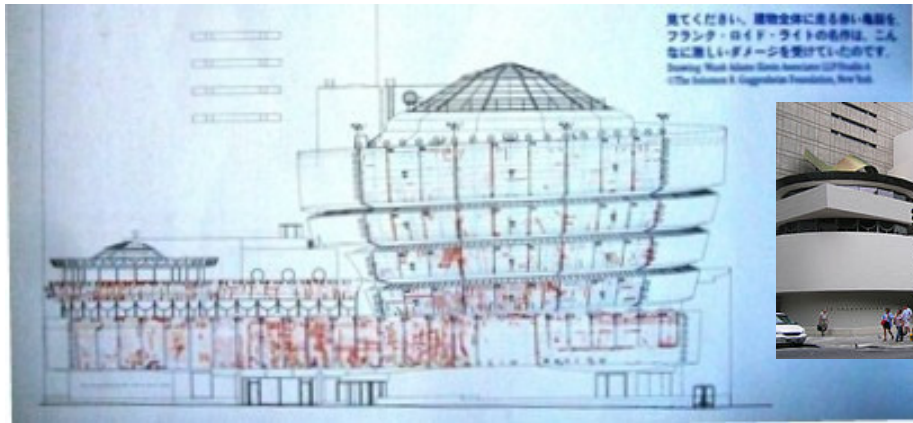
また、グッゲンハイム美術館も建物にクラックが発生したことなどにより修復工事がなされ2008年ごろ完了したようです。

ライトが造りあげた建物も幾つかは解体されていることもあり、今回の世界遺産登録にあたり申請されたことは嬉しいことです。

ル・コルビュジエの建物も世界遺産として申請されたことがありますが、残念ながら登録とはなっていないので共に登録されることを期待しています。

写真は、日経アーキテクチャ 2002. 2-18号より

グッゲンハイム美術館・修復工事



見てください、建物全体に走る赤い亀裂を
フランク・ロイド・ライトの名作は、こ
んなに激しいダメージを受けていたのです。
Drawing: Wank Adams Slavin Associates LLP/Studio A
©The Solomon R. Guggenheim Foundation, New York.



写真・図面は芸術新潮 2007.9月号より

自由学園・明日館



1921年（大正10）羽仁吉一、もと子夫妻が創立した自由学園の校舎として、巨匠フランク・ロイド・ライトの設計により建設されました。80年※の歳月を経て、老朽化による雨漏りや壁・天井の剥落等が目立ち、さらに構造上の問題も著しく顕れてきました。そのため1997年の重要文化財指定を機に、1999年から約3年間にわたって保存修理工事が行なわれました。

自由学園明日館のHP一部より（※印 1999年時？）